
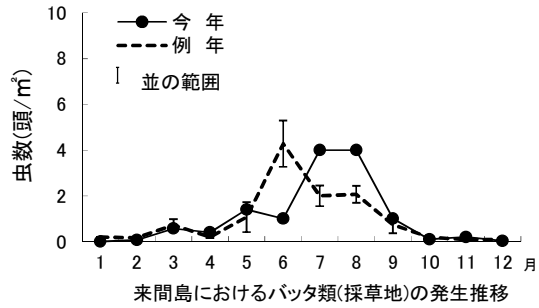
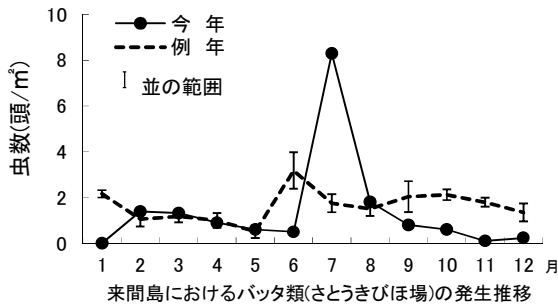


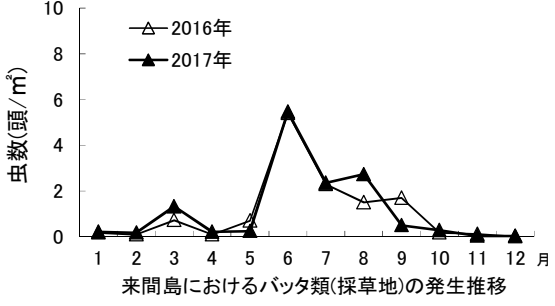
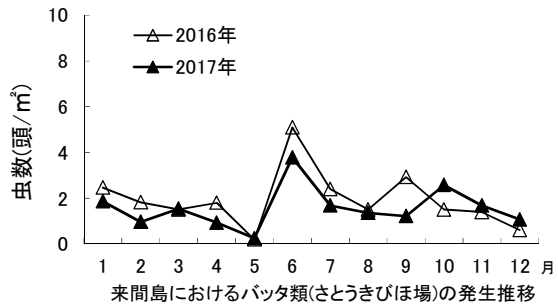
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
12月の発生量（現況）		少	
1月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		さとうきびほ場における成虫の例年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）

今年と例年の推移




過去2年間の推移



- ・ 来間島の一部地域では多発していた。（発生種：タイワンツチイナゴ）
- ・ 本調査にて成虫が多数確認された。

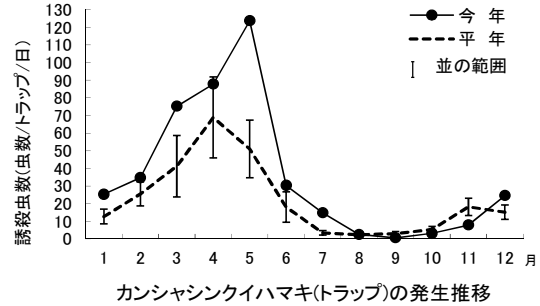
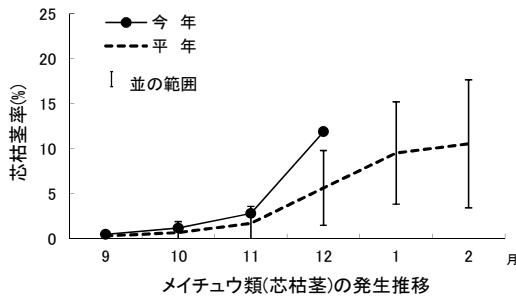
防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

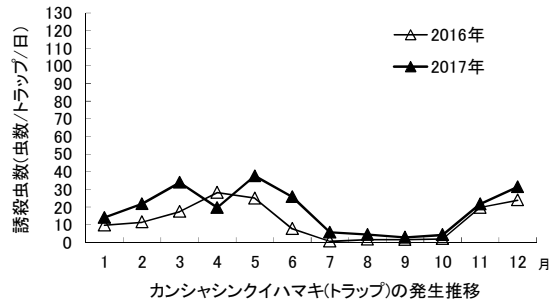
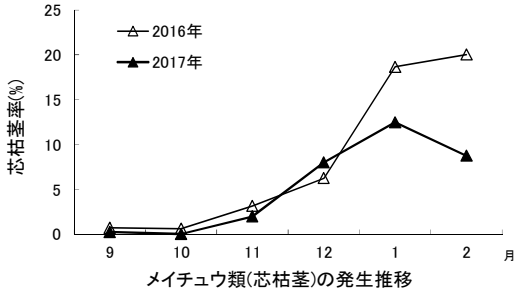
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
12月の発生量(現況)	やや多		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移及び、今後1か月の気温が平年より高い見通しから、12月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の70%がカンシャシクイハマキだった。

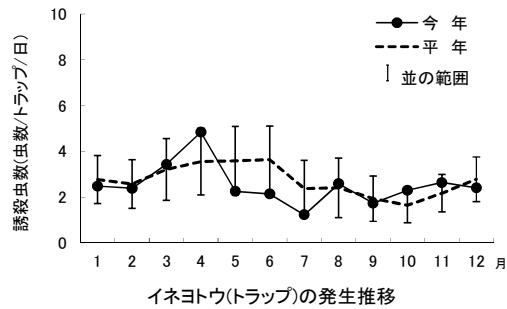
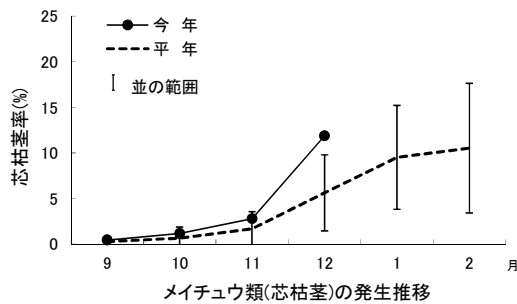
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

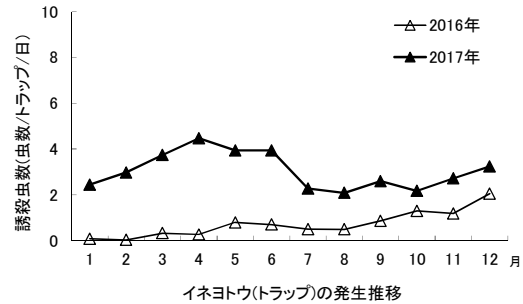
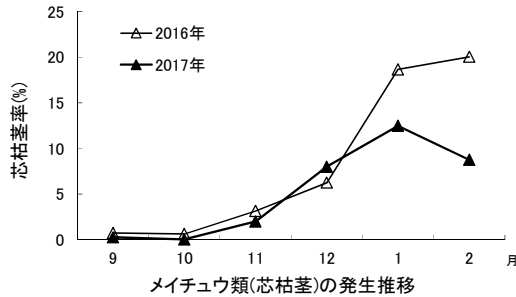
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
12月の発生量(現況)	やや多		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移及び、今後1か月の気温が平年より高い見通しから、12月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・茎内で発見したメイチュウ類の30%がイネヨトウだった。

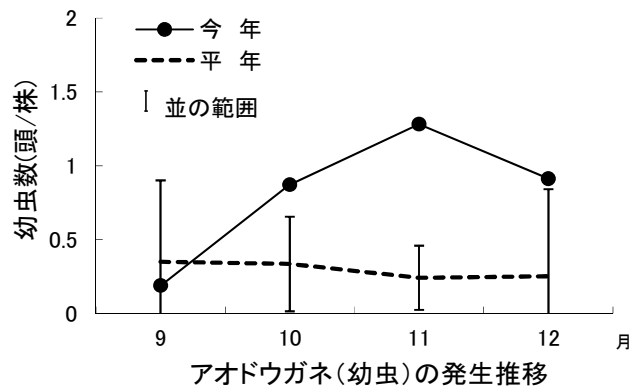
防除のポイント

- ・卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

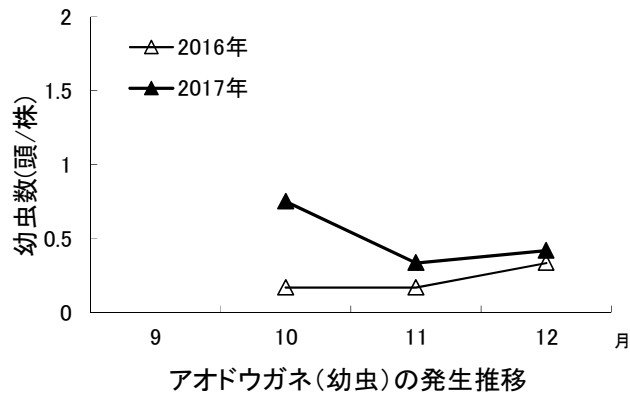
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	アオドウガネ(幼虫)		
12月の発生量(現況)	やや多		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	黄熟期となることから、12月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率は58.8%

防除のポイント

・被害ほ場では早期に収穫し、直ちに碎土を行い、幼虫密度の低減を図る。